

正月に帰省せず、「
来なくてもいい。」と言
われる静岡県に在住
している娘の
所に夫婦で
押しかける事です。

石川 秀樹

新年の抱負
60歳にリーチとなりますので
仕事にせよ趣味にせよ目の
前の日々を謳歌
する1年としたい
です。

田原 智延

「元気で明るく楽しく」
をモットーに今年も
健康を第一にそして
より良い一年にな
るよう取り組
んでいきます。

濱崎 俊明

日々何気なく過ごせ
ていることも当たり前と
思わず、周りの方々に
きちんと感謝を
伝えて
いきます。

中島 大吾

「日々、感謝の心を持ち、
何事にも一歩懸命に取り組
みます。」物事に素直に受け止め、
感謝する。大切な事だ、
楽しい事だと感じます。
一歩後進めたいです。

佐々木 康恵

真面目なので月並みなことしか書き
ませんが、初心に戻ってもう一度努力
し、飛躍とまでは言いませんが、
跳躍できるような年
にしたいですね。
ウサギの年です。

原 光

「体力をつける」
最近歩いて移動をすること
が減ってしまい、息切れを
することが増えてしま
いました。健康のために
も毎週 5kmは歩きます。

室田 直樹

“楽しむ”です。
仕事もプライベートでも
楽しむということを目指
すに頑張りたいと
思います。

橋本 一輝

世の中は、大きな環境変化の中に
あります。一個人の力には限りがあり
ますが、自分にできることを、一歩先を
見据えて、1つ1つやっていきます。
と思います。今年は明るい
新たなステージを見てみたい

恒松 明宏

2023年は運動不足の解消
とする為に時間を取り体を
動かす習慣をつけ
る事を目標にし、
うばの様に元気で
はるかに年になります。

大賀 利江

「早寝早起き」
今年はお勤め前に
コーヒー一杯ゆ、わり
飲める時間を
作れるように
頑張ります!!

増子 枝里子

まだ入社間もないので新
しい出会いに感謝をし、日
々意識高く学び
続け、成長できる
一年にしたいなと
思います。

渡邊 光風

かけはし

Vol.55

冬号

2023年1月

寒さが厳しい日が続くと
思いますので、体調管理
を徹底しましょう♪
本年もよろしくお願いいたします
します(^^)

津和野町殿町通りにて



1～3月の税務・お知らせ

- ・1月・・・源泉徴収票の交付、支払調書の提出
- ・2月・・・前年分贈与税の申告
- ・3月・・・前年分所得税の確定申告

お休みカレンダー

2023年 1月							2023年 2月							2023年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28					26	27	28	29	30	31	



ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL (0856) 23-6116 FAX (0856) 23-6674
E-mail bplan@sx.miracle.ne.jp
HP <http://annokaikei.com>

わたしたちは、たくさんの“ありがとう”を集め、日本の中小企業を元気にします！

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。新年、明けましておめでとうございます。

今年のお正月も、グラントワ改修工事の関係で「コメディ・クラウン・サーカスin益田」の開催は見合わせましたが、昨年の12月には、益田市教育委員会様との共催で「マスダ・フューチャーズ・フェスタ2022」というイベントを初開催することができました。こちらは、地元の小・中・高生が主役のイベントで、子供たちがダンス・歌・落語・益田糸操り人形・石見神楽など、素晴らしいパフォーマンスを披露。サーカスでお馴染みのクラウンKこと大棟耕介さんにもコラボしていただき、お陰様で大盛況に終えることができました。若い世代が輝き、地元の新たな魅力の発見につながる場になったと思います。今後も弊社なりの地域貢献活動に取り組んで参りますので、その際には改めてご案内させていただきます。

さて、今年の干支は「卯」です。ウサギのように、商売も運氣も跳ね上がる年にしたいですね。
それでは2023年もどうぞよろしくお願いいたします！



代表取締役
安野 広明



『大切なのは「気持ちの問題」ではなく「自己分析」』

何かが上手くいかなかった時や、挑戦に失敗した時、「もっと頑張れば良かった」「もっと意識すれば良かった」「気合が足りなかった」などと、いわゆる「根性論」や「気持ちの問題」で終わらせることがあると思います。そう言いたくなるのも分からなくはないのですが、やはり、抽象度の高い「気持ちの問題」に終始している限り、そこから先の成長は難しいのではないのでしょうか。

話は変わりまして・・・。2022年夏の甲子園で、東北勢の悲願となる全国制覇を達成した仙台育英高校の指揮官・須江航（すえ わたる）監督。優勝後の感動的なインタビューは記憶に新しいと思います。同氏は仙台育英秀光中の監督時代、全国大会の準々決勝で敗れ、以下のコメントを残されました。
「負けたのは技術が無かったからです。気持ちや体力、意識の面では、日本一を狙えるレベルにあったと思います。そこを“気持ちで負けた”というのは単なる逃げ。技術が無かったから負けた。野球選手である限り、技術を伸ばすことを考えていかなければ、上に進むことはできません。」
敗戦後のコメントで「気持ち」を語る指導者が多い中、そこに逃げることなく、野球との向き合い方を口にされたというのは流石です。実際、3年後に日本一を獲っています。

また、上記のエピソードと共に、イチローの以下の名言をご紹介します。
「僕は天才ではありません。なぜかという、自分がどうしてヒットを打てるかを説明できるからです。」

つまり、成果を挙げる人やチームというのは、「気持ちの問題」で思考に蓋をするのではなく、冷静な目で、思考を深く掘り下げ、何が足りなかったのか、どうすればよいのかを、どこまでも具体的に自己分析できているのです。とりわけ、上手くいかない時にその事象を直視するのは辛いですし、目を背けたくなるものですが、そういう時こそ、自分としっかり向き合うチャンスでもあります。

かくいう私自身、まだまだ自己分析が足りませんが、「気持ちの問題」で逃げない経営者でありたいと考えています。

第38期経営計画書発表会



昨年の10月3日に、第38期経営計画発表会を開催しました。基調講演では、上田情報ビジネス専門学校の比田井和孝先生をお招きし、「何のために働くのか」というテーマでご講演いただきました。

セミナー紹介



弊社代表の安野が、昨年10月に島根県中小企業家同友会様にて、同12月にまつえ北商工会様、まつえ南商工会様、東出雲町商工会様にてセミナー講師をつとめました。

本の紹介



『菜根譚』～人生は決して難しくない～ （著）境野 勝悟

『菜根譚（さいこんたん）』は、中国の明時代の末期の人、洪自誠（こうじせい）の処世訓です。儒教・仏教などの話がまとまった「人生の教科書」となっています。菜根譚の「菜」は、野菜。「根」は、大根。「譚」は、お話。つまり、お野菜と大根さんのお話です。たった一回こっきりの自分の人生、どう生きたらいいのか？元気が出ない、おもしろくない、やる気がでない、気分がすぐれない・・・大切な今日一日を、どんな心持ちで生きればよいのか？身近で、素晴らしい智恵が説かれた内容となっています。なによりも、温かい人情を感じられる本でした。



濱崎 俊明

『常に評価されていることを忘れない』



私たちは常日頃、無意識のうちに相手を評価しているところがあります。例えばどこかお店に入った際、そこの店員の態度を見て、「あの人は感じがいいな～」とか「あれはちょっと酷いな～」など。感じが良ければ、「今度は友達を連れて来よう」となるかもしれませんし、逆に感じが悪ければ、「もう二度と来ない」となるかもしれません。そうやって心の中で評価し、選別している訳です。その結果、お店であれば「繁盛する・しない」といった事象として現れるでしょう。

そしてこれは店員に限らず、友人・知人・同僚・顧客・新聞やTVやネットに出てくる著名人に対しても同様に、「この人は〇〇だな～」と（心の中で）評価しているはずで。

ただし評価する側にはなっても、自分が評価される側でもあるという事実には、なかなか気付きにくいもの。相対化され、他者と比較された上で、相手から評価を受けていることを忘れてはいけません。その際、無意識にやらかしてしまっている！？とすれば、周囲からの評価が下がるのは逃れられないと思います。そのままだと、せっかくの良縁が途切れたり、チャンスを逃したり、お声がかからなくなったり等、気付かぬうちに、しかしボディブローのように着実にダメージを食らってしまう・・・なんてことも。

したがって、一步引いた視点から「自分で自分を評価する」と言いますか、「初めて自分に出会ったとして、また会いたいと思うか？」「自分に仕事をお願いしたいと思うか？」などの問いを持つておくことが大切ではないでしょうか。

他者評価はほどほどに、自己評価にこそ意識を向けねばと思う、今日この頃です。

『不安の反対は、安定ではなくワクワク』



現在のような先行き不透明な時代においては、誰でも不安な気持ちになると思います。そして多くの人は「安定を手に入れたい」と願うものです。「そうすれば、幸せになれる」・・・と。ただ、もし仮に安定が手に入ったとして、その先に待っているのは、「いつか安定を失うのではないか？」といった不安でしょう。それでは、いつまで経っても不安は解消されません。

この点について、弊社の特別講演会で講師をおつとめいただいた喜多川泰先生は、「不安の対義語は安定ではない」と教えて下さいました。

では何か？それは、（現在や未来への）「ワクワク」だそうです。つまり、安定志向で変化を避けるのではなく、むしろ、積極的に変化を起こし、ワクワクを生み出していく。それこそが、変化し続ける「大自然の真理」にも適っているのだと。

そして、そのために大切なのは挑戦すること。小さくてもよいので、挑戦し、変化を起こすのです。もちろんその結果、上手くいかなかったりもしますが、必ず得られるものはあります。それは例えば「経験値」だったり、「出逢い」だったり。とりわけ出逢いというのは、かけがえのないもので、その出逢いが人生のターニングポイントになるなんてこともあるでしょう。

私自身、これまでの人生を振り返ると、自力で切り拓いてきたということはほとんどなく、出逢いによって導かれてきましたし、それが全てといっても過言ではありません。喜多川先生がご講演の中で、「行動の目的は、出逢い」とおっしゃられたのも頷けます。

挑戦し、変化を起こし、出逢いを生み、ワクワクにつなげていく。不安を解消したいなら、これしかない！

最後に、国道191号線沿いにある弊社の電光掲示板でも流している、書家・相田みつを氏の言葉をご紹介します。

「その時の出逢いが その人の人生を 根底から変えることがある よき出逢いを」

いくつになっても、安定ではなくワクワクを追い求めたいものです。

<取組み紹介>

弊社は交通量の多い国道191号線沿いにあるため、屋上に設置されている電光掲示板は、道行く人々の目に付きます。そこで、どうせなら弊社のPRを行うだけでなく、ご覧になった方の心に「プラスの痕跡」を残す言葉をお届けしようと、過去には、様々な経営者や偉人の「名言」を流してきました。

現在は、東京・有楽町にある相田みつを美術館の相田一人館長の許可を得た上で、書家・相田みつを氏の言葉（作品）を、日替わりで流しています。弊社の横をお通りの際には、ぜひご覧になってみて下さい。素晴らしい言葉との出逢いのきっかけになれば幸いです。

『停滞しなければ元気が出る、元気があれば何でもできる！』



昨年お亡くなりになられた、元プロレスラー・アントニオ猪木氏の名言はたくさんありますが、中でも私が好きなのは、「元気があれば、何でもできる！」です。

私は、われわれのような中小零細企業にとっての最大の武器は「元気」だと思っており、上記の言葉を支えの一つとしてきました。

ちなみに、ある本によると、「元気」とは読んで字のごとく「元（もと）の気」が語源で、この世に生まれた時に誰もが天から授かるものであって、また、元気がないことを気が枯れる、「気枯れ（穢れ・けがれ）」というのだそうです。では、なぜ「けがれる」のか？それは「停滞状態が続くから」だと同著にありました。

コロナ禍で元気がなくなった人が多いのも、メディアによるネガティブな報道の影響のみならず、行動が制約され、動けずに停滞したことが大きな要因なのかもしれません。したがって、とりわけ経営者やリーダーなど、周囲に影響を及ぼす立場の人は、いかに元気を保つか、言い換えると、いかに停滞しないかが重要です。

そしてそのために私が意識しているのは、「今、成果が出ること」だけにフォーカスするのではなく、「未来に種をまき続ける」ということ。

仮に、諸々の制約によって思い通りの活動ができず、今すぐの成果は得られないとしても、電話・メール・SNS・ハガキ等でのコミュニケーション、情報発信、研究開発、新たな分野での学び、新たなプロジェクトの企画など、未来の種まき活動であれば、やりようによっていくらでもできるはずです。

もちろん、まいた種がすべて芽を出し、花を咲かせ、実がなるかどうかは分かりません。中には、そのまま芽が出ないものもあるでしょう。実際に私も、着手したけど消滅したプロジェクトや案件は、いくつもあります。

ただ、それでも止まらずに動き続けていれば元気は保持できるため、気持ちを切り替えて、また次のアクションを起こせばよい。まさに、「元気があれば、何でもできる！」のです。

なにはともあれ、「停滞」というのは、人の気を枯らして元気を奪い続けます。最終的には、気が枯渇する（＝まったく動けなくなる）リスクもあるでしょう。

したがって、予め、自分なりの元気の保ち方を考えておくのがよいかもしれません。

『それは「問題対処」か？それとも「問題解決」か？』



突然ですが、70歳で残っている歯の本数について、厚労省が調査した結果があります。日本は16.5本に対し、歯科先進国として有名なスウェーデンは21本だそうです。なぜこれほどまでに差があるのか？それは、1970年代、多くの人が虫歯や歯周病で歯を失っていた状況を重く受け止めたスウェーデン政府が、予防歯科を国家的プロジェクトとしてスタートさせたことが要因だと言われています。

つまり、虫歯の治療など、起きた「問題に対処」するだけではなく、そもそも問題が起こらないように予防歯科に力を入れることで、「問題解決」を図ったのです。

認識した問題に対して対処するのか？それとも、解決するのか？どちらを選ぶのかによって、長い目で見れば、結果に大きな差が出るのがよく分かるエピソードだと思います。

そしてこのことは、会社でも同じです。様々な問題に対して、対処しているのか、解決しているのかは、会社が成長するために重要なポイントと言えるでしょう。

ただ世の中を見渡すと、「問題解決」ではなく、「問題対処」をしている会社の方が多いと感じます。

というのも、問題解決をしようと思えば、分かりにくいところにある原因を探ったり、解決までに時間がかかったりと、面倒臭いものに対して、表面的に起こった事象に対処する方が、分かりやすいし、簡単だからです。

例えば、部下が単純なミスをした際に、単に怒鳴り散らして注意する行為や、（教えるのが面倒だからと）上司の側でミスを直してしまう行為などは、問題対処の典型です。その場はなんとかしたとしても、根本的には何も問題解決しません。

大切なのは指摘すると同時に、そもそもどうすればミスを繰り返さないようになるのか、言い換えれば、問題解決できるのかを、本人に考えさせることでしょう。

忙しい中で、そういった時間をとるのは大変かもしれませんが、問題解決のための取組みを根気強く行い続けることで、1人ひとりが成長し、組織としての力もつくはず。

日々の業務の中で、「問題対処」ではなく「問題解決」ができているかどうかを、いま一度、見つめ直したいものです。